

ヨーピア

編集・発行 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE) 発行日 2023年1月5日 265号

日本人 x 外国人 多文化共生のまちづくりを伝える

# ヨーピア

265号  
2023年1月



## -Contents-

鶴見のまちと多文化共生  
横浜国際協力センター入居機関の紹介  
横浜国際協力センター運営事業  
横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から  
寄付者のご報告



公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

〒220-0012 横浜西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階

TEL 045-222-1171 (代表) FAX 045-222-1187

E-mail yoke@yoke.or.jp

URL <https://www.yokeweb.com>

# 鶴見のまちと多文化共生

鶴見国際交流ラウンジ館長の  
小林です  
ワックンと一緒にご案内します



鶴見区マスコット「ワックン」

横浜市の中でも、鶴見区は在住外国人の人数が多いことで知られています。明治時代、鶴見区は臨海工業都市としての立地に恵まれていることを理由に埋め立てが始まり、以降京浜工業地帯の中核として発展しました。そこで働くために朝鮮半島や沖縄から移り住んだ人、その後沖縄の親戚を頼り南米から来日した人と多くの人々が鶴見区に集まりました。多くの外国人のみなさんが鶴見区に住むようになり、多文化を色濃く映し出すまちとなった背景にはこのようなさまざまな要因と人々の物語が見えてきます。「多文化共生のまち鶴見」と鶴見国際交流ラウンジの活動について、鶴見国際交流ラウンジ館長の小林と鶴見区マスコットのワックンと一緒にご案内します！



## 在住外国人が増える鶴見の魅力

今年、NHK 連続テレビ小説「ちむどんどん」の物語の舞台となり、大きな注目を集めたまち、「鶴見」。人々が行き交う賑やかな鶴見駅から東へ10分ほど歩くと、鶴見川に辿り着きます。東京湾に流れ込む大きな川に沿って続く緑道には、散歩や釣りを楽しむ人がちらほら……。ここ鶴見区の人口は約30万人で、そのうち外国人は2022年10月末現在で13,889人。この数は横浜市の中でも中区に次いで2番目です。多い国は、上から順に中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジル、ネパール、ペルー。この5年間で1,769人増え、全体としては1.15倍増加しました。特にベトナムがこの5年間で715人増え1.89倍に急増しています。その背景には、京浜工業地帯の近隣に位置し、都内へもアクセスしやすいため通勤に便利なこと、また物価が比較的リーズナブルで、住みやすいといった点があると考えられています。

## 鶴見には沖縄や外国につながるお店がたくさん！

こうした国際色豊かな鶴見区の中でも、外国人が多く暮らしているのが鶴見駅からバスで10分ほどの潮田エリア。通りを歩くとブラジルやペルー、ポリビア、インド・ネパールのレストランが所々に立ち並んでいます。ここでは、南米からの日系の多くの人たちが沖縄につながりがあり、南米料理と沖縄料理を同時に楽しめる店が多いのも特徴です。今年4月には、新たにブラジルの輸入食材のスーパーもオープンしました。更にこの地域の小学校では約150人もの外国につながる児童が学び、国際教室ではさまざまな言語が飛び交っています。また毎年、沖縄の食と文化をテーマとした「鶴見ウチナー祭」も開催されています。



2022年11月に開催された「ウチナー祭」ポスター。沖縄につながるの方々の活動も活発で、鶴見での沖縄文化継承にも力を入れています。



鶴見区潮田周辺では沖縄、中国、インド、ネパール、ブラジル、ペルー、ポリビアなどさまざまなお店を見かけることができます。沖縄やそれぞれの国の雰囲気を感じることができ、歩いているだけでも楽しいですよ！



## 「だれもが安心して豊かに生活できるまち」を目指す鶴見国際交流ラウンジ

鶴見国際交流ラウンジはこうした沖縄、南米のほか、アジアの様々な国々の文化が息づく地域の中にあって、「多文化共生のまちづくり」を軸としたさまざまな事業を行っています。現在、最も力を入れて取り組んでいるのが、子育てをテーマとした共生の地域づくりです。具体的にはWebサイト「外国人のための子育てつながりマップ」の制作を、来年3月の完成を目指して進めています。地域の公共施設、子育て拠点のほか、小中学校、レストランなどの情報を盛り込む予定です。このマップづくりは、単に場所を伝えるだけが目的ではありません。子育てを通して外国人親子が日本人親子と、また地域とつながることが一番の目的です。各施設を点に例えたら、点と点がつながって線となり、地域に多文化共生のネットワークが構築されていくことが大事だと考えています。そのため、私たちは各施設のスタッフの方々へ外国人親子の受け入れとともに、多文化共生への理解を深めてもらえるように掲載の依頼をしています。施設紹介のページは、外国人親子が読みやすいように、やさしい日本語、ポルトガル語、スペイン語で情報を発信し、来年度以降、さらに掲載エリアを拡大していく予定です。



現在重点を置いている「子育てをテーマとした共生の地域づくり」では、ラウンジだけではなく、区役所や地域の団体、支援者と協力して事業を展開しています。



他には、地域の子育てサロンに出向いて、外国人親子が日本語と出会うイベントも開催しています。この取り組みを実施していく中で、「孤立しがちな外国人ママをサポートし、一緒に外国人の子どもたちも育てていこうとする意識」が地域のキーパーソンに芽生え始めています。このように多文化共生に共感する人材が増えていくことに私たちも大きな意義を感じています。

これからも外国人親子と日本人親子が交流し、草の根レベルでつながっていくように、さまざまな事業に取り組んでいきたいと考えています。毎月、月末土曜日には鶴見銀座商店街のイベント「つるぎんどっと来〜い!!」にラウンジのブースを出展し、外国の文化に触れてもらう企画を実施しています。



↑上 「つるぎんどっと来〜い!!」での出展の様子。外国語で数字を言い当ててもらいました。

←左 地域で外国人親子のみなさんと一緒に遊びながら日本語を学ぶ企画を実施しました。地域へ出向っていくことも大切にしています。

## 他にもこのような事業を展開

### 相談

生活などの相談を多言語で対応しています。行政窓口等への通訳派遣の相談もできます。



### 国際理解

交流イベントを通じ、在住外国人のみなさんや海外の文化等を知る機会を提供しています。



### おしゃべり会

外国人のみなさんが気軽に日本語でおしゃべりできる会です。参加したみなさんが知り合い、つながることも大切にしています。



### 日本語教室

在住外国人のみなさんを対象とした各種日本語教室を開催しています。ボランティア向けの講座も開催しています。



### 日本文化紹介

在住外国人のみなさんが日本の文化を知り、一緒に楽しむイベントを開催しています。浴衣や着物の着付などがあります。



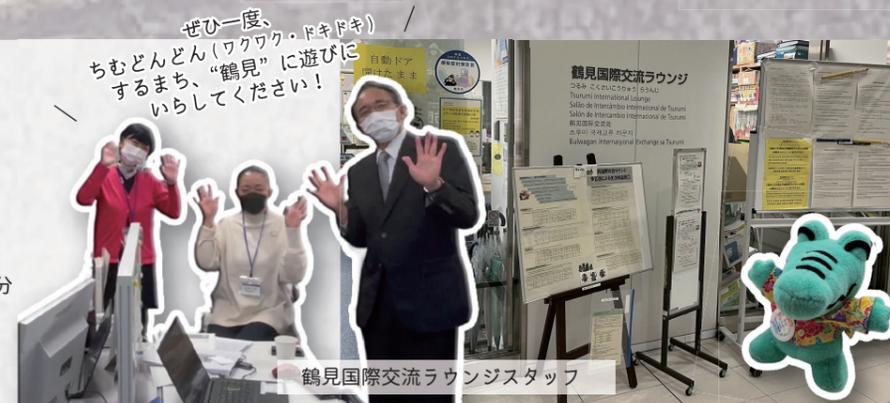
### 学習支援

ボランティアグループによる外国につながる子どもたちを対象とした学習支援教室が開催されています。



## 鶴見国際交流ラウンジ

〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央 1-31-2  
シークレイン2階  
Tel.045-511-5311 Fax.045-511-5312  
E-mail mail.tsurumilounge@yoke.or.jp  
JR 京浜東北線「鶴見駅」東口より徒歩2分  
京浜急行線「京急鶴見駅」より徒歩2分  
<https://tsurumilounge.com/>



鶴見国際交流ラウンジスタッフ

背景写真：鶴見川にかかる潮鶴橋から川下を臨む。潮鶴橋を渡った先にある潮風大通りをしばらく歩くと、沖縄や南米につながるお店が点在する潮田エリアの入口に到着します。更に先に進むと工業地帯にたどり着きます。工場地帯では仕事に従事する外国人のみなさんの姿も見かけます。

国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所



「食料問題」に取り組む国際機関

1945年の設立以来、FAOは農業開発と栄養改善を促進し、食料安全保障を追求することで、世界の貧困と飢餓の撲滅に取り組んでいます。



FAOの目的をより効率的に達成するために、FAOと日本国内の政府機関や様々な関係非政府組織、民間及び市民社会との間の協力の幅を広げ、絆を強めていくことを目的としています。

公式ウェブサイト



<https://www.fao.org/japan/jp/>

WFP 国連世界食糧計画日本事務所(国連 WFP)



「食料問題」に取り組む国際機関

WFP 国連世界食糧計画は、飢餓のない世界を目指して食料支援を行う国連機関です。



飢餓のない世界を目指し最前線で活動する国連機関の日本事務所です。イタリア・ローマの国連世界食糧計画本部と日本政府との連絡・調整業務、企業や各種団体・NGOとの協力関係の推進、および広報活動を行っています。

公式ウェブサイト



<https://ja.wfp.org/>

国際農業開発基金 (IFAD) 日本連絡事務所



Investing in rural people

「食料問題」に取り組む国際機関

発展途上国における農村部貧困層の食料と栄養の安全保障のため、小規模農家が所得を増やし、経済的なレジリエンス(強靭性)を強化できるように取り組む国連専門機関かつ国際金融機関です。



貧困・飢餓撲滅等の目的を達成するため日本政府および国内の様々な機関、団体、民間企業等との協力関係を築き、その関係をより強固なものとするを目的としています。

公式ウェブサイト



<https://www.ifad.org/en/>

ITTO 国際熱帯木材機関 (国連条約世界本部)



「地球環境の問題」に取り組む国際機関

国際熱帯木材機関 (ITTO) は熱帯林資源の保全と持続可能な経営、利用、そして持続的かつ合法的に管理された熱帯木材資源の貿易拡大と多角化を促進している政府間組織です。世界の熱帯林と熱帯木材貿易の大部分を、ITTOの加盟国が占めています。



- ①持続可能な森林経営と森林保全を促進するため、国際的に合意された政策文書を取りまとめます。
- ②熱帯加盟国がこのような政策を各国の状況に応じて取り入れ、プロジェクトを通じて現場で実践できるように支援を行っています。
- ③熱帯木材の生産や貿易に関するデータの収集、分析や提供を行います。
- ④地域社会と業界の双方のレベルで林産業の発展を目的としたプロジェクトやその他の取組への資金提供も行っています。



公式ウェブサイト



<https://www.itto.int/ja/>



横浜国際協力センターに入居する国際機関などを紹介します

「横浜国際協力センター」は、横浜市が世界の平和と発展に貢献するため環境・食糧・都市問題など地球規模の課題解決に取り組む国際機関の活動拠点として、1991年にみなとみらい地区に設置した施設です。横浜市は、地球規模の課題解決を担う国際機関や、本市の国際化に貢献する各国政府の関係機関等を誘致・支援することを通じて、国際社会の平和・発展に寄与するとともに、市民のみならず、市民のみなさまにとって国際理解のきっかけとなることや横浜市の対外的な知名度向上を目指しています。YOKEは横浜市からの受託により、このセンターの運営管理を行っています。

シティネット横浜プロジェクトオフィス (アジア太平洋都市間協カネットワーク)



「都市問題の解決」に取り組む国際機関

横浜市の支援のもと、CITYNETの一組織として国際協力事業を実施。横浜市や事業専門機関 (NPO 法人、大学、財団) 等と連携し、SDGsをはじめとする地域防災、気候変動など様々な都市課題を視野に入れた国際協力を展開。



CITYNETは、都市問題の改善・解決を目指す非営利の国際組織であり、都市のあらゆるステークホルダーを繋ぎ、アジア太平洋地域の都市が直面する都市課題に、具体的なソリューションを提供することを目的に活動を展開しています。

公式ウェブサイト



<http://citynet-yh.org/japanese/>

Y-PORTセンター公民連携オフィス (Y-PORT CENTER)



「公民連携による海外インフラビジネス推進に向けたプラットフォーム」

横浜市が推進している公民連携による国際技術協力 (Y-PORT事業) を実施するプラットフォームです。その拠点であるY-PORTセンター公民連携オフィスでは、(一社) YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE (YUSA) と連携しながら、新興国の都市課題の解決と、市内企業のビジネス機会の創出に貢献しています。



アジアをはじめとする新興国等では、著しい経済成長や都市化に伴いインフラ整備や環境対策が遅れ、様々な都市問題が発生しています。横浜市の都市づくりとそれを支える企業の技術・ノウハウの活用を通じて、新興国の都市課題解決と企業の海外展開を支援しています。

公式ウェブサイト



<https://yport.city.yokohama.lg.jp/>

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)



「上級日本語教育を通じた日本理解の促進」に取り組む国際機関

1963年東京に設立された、日本語教育界ではもっとも長い歴史を有する研究機関の一つで、上級日本語の集中教育を行っています。



2,000名を超える卒業生の多くは、日本研究者や政府関係者、或いは実業家として、日本に関わる様々な分野において牽引役を担っています。IUCの日本語教育は、母国と日本の架け橋として活躍し、日本と世界との関係に貢献していく人材の育成に欠かせないプログラムです。

日本に関連するプロフェッショナルを目指し、生涯にわたって日本と関わりたいと考える中・上級日本語レベルの大学院生を主な対象に厳格な日本語教育を実施。日本語教育を通して、日本と世界との協調関係促進に貢献しています。

公式ウェブサイト



<https://www.iucjapan.org/>

公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)



「多文化共生のまちづくり・グローバル人材育成」を支援する公益財団法人

横浜の国際都市としての発展に寄与するために、多文化共生のまちづくり及び国際協力・国際交流に関する活動を推進する横浜市の外郭団体です。



私たちは、国際都市横浜の歴史的・文化的特性を継承しつつ、異なる文化や価値観をともに認め、尊重し合える豊かな社会づくりを目指します。—YOKE ミッションステートメント—

公式ウェブサイト



<https://www.yokeweb.com/>



# 横浜国際協力センター運営事業

## 横浜国際協力センター運営事業の概要

横浜・みなとみらいに立つランドマーク的な半月形の建物の5・6Fフロアには、地球規模の課題解決に向けて活動する8つの国際機関等が入居しています。  
 ここを訪れた横浜市民の皆さんの多くが、「こんな施設があったんですね!」と驚かれます。私たち横浜市国際交流協会は、横浜市の誘致により当センターに入居する国際機関等を支援するため、横浜国際協力センター事務局として、快適な執務環境の提供や、各機関との連携によりその取り組みを市民に還元する事業を展開しています。(横浜市委託事業)

## センターならではの、こんなこと

国際機関等が入居することから、施設運営においては特にセキュリティ管理を徹底するほか、防災・減災活動にも力を入れています。外国人職員などの中には地震の経験が少ない方も多く、発災時のパニックを避けて安全に避難するための訓練を日々重ねています。  
 外国人職員や関係者が多いため、まず出てくるのが空調問題。日本の夏の暑さに「暑すぎる!」という声、反対に冷房で「寒い!」という声、秋になると毛糸の帽子の方、真冬でも半袖Tシャツの方、体感温度が幅広いのです。また、海外とのやり取りが多いため、時差の問題があります。オンライン会議や現地時間に合わせた動きなど、夜中の執務もしばしば。さらに、日本文化を大好きな方が着物を着たり、英語のみならずスペイン語やフランス語など様々な言語での会話が交わされていたりと、共有スペースでもセンターならではの光景が広がります。そんなグローバルに活躍する職員皆さんの印象は、とにかくフレンドリー! 国際的にダイナミックな活動を展開しながら、ユーモアと機知に富んだ素敵な方々ばかりです。

## センターの特徴を活かして

当センターの特徴の一つは、市所有の施設に複数の国際機関等が入居しているということ。横浜市民の財産にグローバルな活動を展開する機関が集まっているという利点を活かし、各機関と連携して、子どもから大人まで、市民の皆さんにより身近に地球規模の活動を知っていただき、参加できる取り組みを推進していきたいと考えています。



小学生向け  
国際機関紹介・SDGS 講座



国際機関  
実務体験プログラム

## センターの特徴を活かした取り組み



地球市民講座 (2019 年度)



グローバルキャリアガイダンス

### 横浜国際協力センター運営事業担当 松田知佳

入居する機関のみなさんが日々支障なく業務に従事できる環境づくり等を目的に、横浜国際協力センターの建物があるパシフィコ横浜と入居各機関等との調整やセンター設備の管理を担当しています。施設の性質上、細心の注意が必要とされる場面も多くありますので、各機関のみなさんとの協力が欠かせません。また、市民のみなさんにセンターや各機関の活動について知っていただく各種イベントなどを企画しています。



# 横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から



**妻がもうすぐ出産しますが、私はフルタイムで働いています。日本には親や親戚など手伝いを頼める人がいないので、困っています。(スペイン語での相談)**



横浜市には産前産後ヘルパー派遣制度があります。月曜日から金曜日(12/29 ~ 1/3・祝日は除く)の9時から17時の間に1回2時間以内、1日に2回までヘルパーが来てくれます。費用は1回あたり1,500円ですが、世帯収入によっては減免を受けられる場合があります。産前産後それぞれ20回まで利用できます。  
 また、2022年10月からは「産後パパ育休(出生時育児休業)」という新しい制度が始まり、生後8週間以内に最長4週間の育児休業を、最大2回に分けて取ることができるようになりました。  
 お住まいの区役所の子ども家庭支援課に相談してみてください。無事の出産をお祈りしています。

横浜市多文化共生総合相談センターでは、外国人のみなさんからの質問に11言語で対応しています。お気軽にご連絡ください。電話 045-222-1209

## YOKE からのお知らせ



YOKE とその関連施設、横浜市国際交流ラウンジで開催する多文化共生に関する研修会やイベントの情報を月2回メールで配信しています。多文化共生や国際交流に関心をお持ちのみなさま、ぜひ登録ください!

多文化共生に関する研修会やイベント情報は  
いち早くお届けします!



登録 URL <https://m.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=yoke&task=regist>

## 寄付をいただきました

### 国際ソロプチミスト横浜西 様

11月28日、長年にわたり当協会の活動をご支援いただいている団体：国際ソロプチミスト横浜西の山岸京子さんが来所され、ウクライナ避難民の支援のために小野崎理事長に寄付金30,000円が手渡されました。寄付金は、有効に活用させていただきます。本当にありがとうございました。



Thank You

## ウクライナ避難民支援募金活動へご協力をお願いいたします

YOKE では、ウクライナ避難民支援のための募金活動を行っています。お預かりした募金はウクライナから横浜市へ避難してきた方々の生活支援等に活用します。みなさまからの温かいご協力をよろしくお願いいたします。

活動期間 令和4年8月15日(月) ~ 令和5年3月31日(金) ※延長の可能性あり

募金箱設置場所 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)  
横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階

お振込み先 銀行名 横浜銀行 横浜市支店 普通預金 6063491  
公益財団法人横浜市国際交流協会

ご注意ください  
本募金は、税法上の控除対象外となります / 領収証の発行可 / 振込手数料は本人負担となります

## ウクライナ避難民支援募金活動へのご協力をお願い

公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE) では、ウクライナから横浜市へ避難してきた方々の生活支援等のために募金活動を行っています。皆さまの温かいご協力をよろしくお願いいたします。

